

令和 5 年度 第 5 回西宮市産業振興審議会計画部会 議事録要旨

- 日時：令和 6 年 2 月 15 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分
- 場所：西宮市役所第二庁舎 6F 会議室 B601 会議室
- 出席委員：上村委員、山下委員、古野委員、兼吉委員、清水委員、
金丸臨時委員、澤田臨時委員、竹内臨時委員、折田臨時委員、
立花臨時委員、吉住臨時委員、坂倉臨時委員
- 欠席委員：田村委員、中嶋臨時委員、加藤臨時委員（敬称略）
- 事務局：田中産業部長、阪口商工課長
（商工課）上田係長、中村係長、鳥居係長

1. 開会の挨拶等

- (1) 開会にあたり上村計画部会長より挨拶
- (2) 審議会成立を報告（15 名中 12 名の出席を確認）
- (3) 配布資料の確認

2. 議題

- (1) 「パブリックコメント後の計画最終版について」

事務局より配布資料を元に説明

（「・」は委員、「→」は事務局の発言）

【パブリックコメント提出意見に対する市の考え方】

- ・資料 1 のパブリックコメントだが、環境政策については範囲外かもしれないが、環境は産業振興の側面も含んでいる。SDGs といった言葉の中に環境産業といった側面も含まれ、環境も当然意識しているという視点を示した方がよい。

【計画案（P3）の人口動態】

- ・人口動態については、自然動態と社会動態の状況を追加で分析してはどうか。
→人口動態（自然増減・社会増減）の追加は承知した。

【計画の数値目標】

- ・計画の数値目標に KGI や KPI が混在している印象を受けた。基本方針 1 について、例えば、市内総生産や従業者数は KGI になるだろう。両者のバランスを取るならば、KPI 的な要素を追加してはどうか。例えば、「ハローワークの求人数」などである。基本方針 2 については、KGI と KPI がバランスよく入っている。基本方針 3 については、KPI として、「商工会議所への起業に関する問い合わせ件数」などを入れてはどうか。基本方針 4

については、KPIの要素がないため、「有効求人倍率」などを入れてはどうか。

→基本的には、KGIの視点で数値を設定していた。基本方針1へのハローワークの求人数については、社会動向の変化に影響されるため、掲載しない方向とさせていただきたい。基本方針3への商工会議所への起業に対する問い合わせ件数については、設定は可能であるが、委員の皆様の意見をお伺いしたうえで決定したい。基本方針4への有効求人倍率についても、社会動向の変化に影響されるため、そのまま(掲載しない方向)でお願いしたい。

・パブリックコメント後の計画案ということもあり、計画に記載することは難しいと思われるが、指摘があった項目については、内部データとして数値はウォッチするという方針で行きたい。

・資料3のふるさと納税の返礼品数について、年率10%の増加は、結構数字が大きい問題ないか。

→ふるさと納税件数については、若手を中心とするタスクフォースを立ち上げており、発掘に努めており、達成可能な数値であると考えている。

【市内企業の流出】

・近年は市内からの企業転出が多く、様々な情報が飛び交っているが、出来る限り流出を防ぐような対策が必要ではないか。

→企業の移転防止は、専門家による企業訪問(主に製造業)を実施しており、現状は把握しているつもりだ。ただ、企業の事業戦略によるため、すべてを防止するのは難しい。

・企業の育成や企業誘致は重要な視点である。本日の議論にもあった企業の流出は、大きな痛手である。企業誘致の影響力は大きく、今回の計画で検討した課題等も一気に解決してしまう可能性がある。兵庫県下では、淡路島の大手人材会社の立地など、良いインパクトが出ているものも多い。

【市内産業】

・西宮の産業構造をみると、統計的にも第2次産業から第3次産業へのシフトなど、時代の潮流に沿った変化が生まれていると理解した。

・今回の産業振興計画とは別かもしれないが、教育産業(学習塾等)の強みは、今後の産業活力にもつながっていくのではないか。西宮北口には美容室が増えているが、それも地域のニーズを反映した結果だと思う。また、最近は福祉産業も含めて、第3次産業が増えている。

→西宮市は文教住宅都市であり、生活に密着した産業が多いのは特徴だと思われる。市内の産業活性化は当然重要であり、市内での経済循環を促すためにも、企業の誘致・流出防止、新たな産業創出は重要な視点である。この辺りを上手くバランスを取りながらやっていく必要がある。西宮は阪神間の好立地を生かして、産業振興も進めていかないと

いけない。

- ・西宮北口は教育産業（塾）が盛んなのはその通りであり、エリアの中で一種の競争原理が働いており、その中でサービスの質も向上している。教育産業としても、西宮北口のようなエリアに立地することが、一種のステータスになっている可能性もある。
- ・福祉産業については、立地による歳入と歳出効果は一度点検してもよいだろう。

【酒蔵ツーリズム】

- ・灘五郷の一角として、市内の酒造会社も個社レベルでPRは行っているが、市内で人が回る仕組みが必要である。例えば、阪神甲子園球場との連携である。酒のテーマパークのような受け皿があるとよい。他の産地（京都・伏見など）は観光地化されているが、西宮はまだまだ弱いと思っている。外国語対応可能なVRなどを活用できるとよい。
→酒蔵ツーリズムについては、現状での取組をP43に記載している。VR活用なども貴重なアイデアだが、要検討である。
- ・酒蔵ツーリズムについては、多言語対応できているのか。現場の受入体制はどうか。
- ・今後の観光では、ハラル対応や礼拝スペースも重要な視点である。世界の3分の1がムスリムという時代の到来が予測されている。
→多言語対応については、現状は企業努力によるところが多く、市として本格的に対応はできていない。観光協会のホームページについては、今後、多言語対応を検討している。
- ・酒造メーカーの側も、常に多言語対応できる体制は構築できていない。
- ・今後、多言語対応などのスピード感を高めてもらいたい。
→近畿運輸局の事業で有識者や旅行会社等による「関西観光まちづくりアドバイザー会議」から3月に提言書を頂く予定である。その結果もふまえて考えていきたい。
- ・お酒のテーマパークや道の駅は重要であり、これまでの酒造メーカー等で検討したこともある。当社も先代の時代から景観に配慮した事業所づくりを進めており、近年は蔵開きも見学してもらっている。酒×観光については、自社としても推進していきたい。
- ・酒蔵見学についても、リアルだけでなく、バーチャルでも楽しめるとよい。案内人を付けるよりも、ある程度バーチャルで対応できる仕組みづくりも大事である。
- ・集客の観点では、西宮は個人旅行をどう増やすかが重要だと思っている。西宮の場合、団体客はほとんどいないのではないか。

【観光】

- ・観光入込客数をみると、実はそれほど大きく増えていないことが読み取れる。西宮神社と阪神甲子園球場の2大拠点からどう他のエリアに波及させていくかが重要である。特に、「甲子園」という言葉は全国区であり、スポーツに限らず、「●●甲子園」という打ち出し方も面白い。
- ・甲子園球場は大阪にあるというイメージもあるが、西宮に立地しているということをもっ

と打ち出した方がよい。

- ・西宮には「観光ボランティア制度」があったが、昨年組織が解散した。非常に重要な資源であるので、市も補助を出した方がよいのではないか。ボランティアへの補助は重要な視点である。
→これまでは「まちなか観光」に注力してきたが、産業振興の観点からは、外からの集約も重要である。大きな意味では観光戦略の転換も必要になるかもしれない。ボランティアの活用は重要だと考えている。
- ・実施体制では、学生など案内ガイドを育てるのはどうか。コスト的にもほとんどかからないので、良い方法だと思う。

【商店街支援】

- ・商店街の面では、共同施設の維持管理でコストがかさんでおり、事業者の負担になっている。苦楽園ストアーズミーティングのようなところが広がっていきだろう。近年は電気代の補助など市の支援は大変助かっているが、共同施設の側面にも注目してもらいたい。
→防犯カメラや電灯といった共同施設は、地域防犯の側面からも重要である。商店街は地域のコミュニティであり、高齢者の見守りなど様々な機能が期待されている。他部局からもそうした声が出ている。共同施設の維持管理費がかさんでいる点は、認識している。

【起業支援・起業継続支援】

- ・起業に関しては、非常に重要な視点であり、次期計画での市の意気込みを感じられるものである。ただ、より実効性を高めるために、令和5年度中に現在の取組状況はサマリーしておいた方がよいだろう。
- ・西宮支援センターでは、廃業者の情報は補足しているのか。
→まだ2年目なので、そこまでは補足できていない。
- ・創業支援について、P53の創業支援数については、単年度よりも累計で示せると、より良かったかもしれない。パブコメ後なので、修正対応は不要である。
- ・福祉産業についても、新しい産業が立地すること自体は、トータルでみると良いことだと思う。
- ・今後は同業・異業種を問わず、事業者間の掛け合わせにより、新しい展開を生んでいくことも重要である。
- ・西宮の創業希望者は他所と比べても非常に多い。財政負担もあるので難しいが、創業に向けた支援(場)は拡充してもよいだろう。一方で、創業支援でリーダーシップを発揮する人がいるとよい。

【事業者向けの情報発信】

- ・計画案 P39 の「事業者向け施策情報発信事業」について、ブログが入っているが、プロ

グはもうあまり活用されていないので、表現は変えてもらいたい。KPI で設定した指標なども参考書きぶりを工夫してもらいたい。

- ・情報発信の方法についても、KPI を設定しているため、情報発信の方法を「模索」するだけでなく、より良い情報発信方法の確立に向けて、「表現」を強めてもらえると嬉しい。
- ・情報発信の方法については、「WEB 媒体など」という表現に修正してはどうか。

【市内業者の受注機会拡大】

- ・経済循環率の低さが西宮市の特徴であり、問題だと思っている。そのため、市内企業の受注機会の増加などを計画にも反映して頂いている。ただ、P39 の市内業者受注機会拡大の促進については、より市内事業者の活用を拡充していくことが重要ではないか。今の表現だと、50 万円以上は市外発注を許容しているようなニュアンスに見えている。表現を再検討してもらいたい。

→原則 50 万円未満について、担当部局の決裁により、市内業者を選定することを原則としている。それ以上の金額については、市内だけではなく、市外も含めて競争原理が働くようにしている。ご指摘の点については、表現を少し検討したい。

【事業者表彰】

- ・市の表彰制度廃止について、兵庫県（阪神県民センター）の方でも色々な表彰制度を行っているので、代替すればよい。ちなみに、西宮には日本一の溶接士がいる。昨年 11 月に、一般社団法人日本溶接協会が主催する全国溶接技術競技会が、茨城県にある日立建機(株)霞ヶ浦総合研修所で実施されたが、全国 1 位は西宮浜に立地する株式会社タニキカンの石井氏であった。名だたる大手企業も多数参加する中で非常に目覚ましい成果であり、西宮の技術力の高さの証左でもある。
- ・当社は、兵庫県の認証（女性活躍・成長期待企業・SDG s など）を多く取得しているが、最近では技術者だけでなく、様々な側面を評価するシステムがある。表彰制度はモチベーションアップになるので、県と市が連携して市内企業にも働きかけてもらいたい。高齢の事業者であれば、申請支援を行政が実施するのもよいだろう。
- ・県の表彰制度にアプライできるように市が働きかけるのはよいだろう。
→表彰制度が知らない事業者も多いので、周知を行うとともに、市としてできる支援を検討する。
- ・市の表彰制度については、市の「感謝制度」のような形式で残してもらえるとよい。西宮市として市の企業へ感謝を伝えていただきたい。
- ・市としても維持できる方法を検討してもらいたい。先ほどの溶接士の事例もそうだが、そうした人を市が表彰できないのはもったいない。表彰制度についても、応募してもらいプレゼン大会などを通じて選定する方式であれば負担も少ないだろう。表彰制度といった形式ではなく、ビジネスコンテストのような形式もよいだろう。

- ・表彰制度については、廃止ということだが、別事業として、市内の企業情報を取りに行く仕組みは必要かもしれない。
- ・市の表彰制度の廃止については理解したが、地域でキラリと光るプレイヤーを発掘するような仕組みは重要である。そうした取り組みは「人材バンク」として活用することができるわけで、組織内での属人化を防ぐことにもつながる。
- ・企業の表彰制度が長続きしない理由として、受賞した企業もそれを上手く発信できないこともある。受賞によるメリットなどもしっかり伝えておく必要がある。
- ・兵庫県の場合、表彰制度を時代に合わせて上手くアップグレードしているので、参考になるのではないか。
- ・例えば、SDGs への取組など新しい経営テーマに取り組む事業者には、もっと積極的に表彰した方がよいだろう。
→表彰制度の停止だが、年を重ねるごとに盛り上がり欠けてしまい、一方でテーマを拡大すると評価が難しくなるというジレンマもある。

【計画の進捗管理】

- ・今後の計画の進捗管理だが、計画部会の上位の「審議会」で継続的に見ていくという理解で良いか。
→今後の進捗評価も審議会で行うことになる。

3. 閉会

3月上旬に議会報告のうえ、計画を確定する。本日の意見をふまえて、最終的な調整を行うが、対応は座長及び事務局に一任いただくということをお願いしたい。

※一同、異議なし

以 上